

2023 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	山口 瑞穂
研究テーマ	日本国内の宗教運動における終末論的救済観の比較研究
研究概要	日本国内の終末論的な救済観を掲げる宗教運動を比較検討するための分析視座を、文献調査によって検討する。

1. 研究活動の概要と研究成果	近年のいわゆる「宗教 2 世」問題に関連し、終末論的な救済観そのものが問題の要因となるのではなく、教説の運用方法や組織統制のあり方との組み合わせによって問題が生じることを検討した。また、終末論的な救済観は、その教えが社会に向かっていているものである場合に社会問題化し易い。しかし、社会志向性の弱い教えである場合、終末論を運用する形で子どもへの虐待がおこなわれていても、長期にわたり見過ごされる傾向にあることなどを明らかにした。
2. 学術論文・学会発表等	<p>[論文等]</p> <p>◆ 論文、書籍等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共「エホバの証人の「宗教 2 世」問題——教団史的な観点からの考察」(塚田穂高ほか編著『だから知ってほしい「宗教 2 世」問題』筑摩書房、2023 年 9 月、分担執筆、第 5 章担当) ・ 単「書評へのリプライ」(山口瑞穂著『近現代日本とエホバの証人——その歴史的展開』『宗教と社会』 29 号、pp. 217-218、2023 年 6 月 (査読無)) ・ 単「エホバの証人における「2 世」問題の構成と終末論的な救済観」(『宗教研究』第 97 巻別冊、pp. 286-287) (査読無)) <p>[発表]</p> <p>◆ 学会発表等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単「エホバの証人における「2 世」問題の構成と終末論的な救済観」、日本宗教学会、第 82 回学術大会 (東京外国語大学)、2023 年 9 月 10 日 ・ 単「宗教教団の自浄作用について考える」、2023 年度 (公財) 国際宗教研究所設立 70 周年記念シンポジウム「これからの社会と宗教教団」(東京大学) 2024 年 2 月 17 日
3. 今後の課題	終末論をめぐる具体的な社会問題の諸相もさることながら、その原点ともいえる終末論と宗教運動の関係について、引き続き研究を深めることが今後の課題である。